

《平成29年度の経過と評価》

開所当初より、「笑顔あふれる職場をつくろう！」をテーマに掲げ、利用者1人ひとりの Well-being（よりよく生きる：暮らす・働く・余暇活動の充実）、QOL（生活の質）を高める手段として日中活動種目（生産活動・余暇活動）を組み立てている。店舗運営、及び支援の形づくりにあたり、毎月の班会議、支援会議、また職員会議を通して、職員1人ひとりが考え参画する運営体制が確立してきた。年度末に新規利用者が1名増員し、契約者数が23名となった。安定的な運営のために新規利用者の確保は必須ではあるが、年度末で退職した中堅職員がいるなど、職員体制が不安定なこともあり、慎重に行っている。今後は、中・長期的視野で人材育成、組織づくりをすすめる。また他事業所との連携・協力をよりすすめた支援体制づくりをおこない、事業の円滑な推進を目標とする。生産活動は、主な作業班に所属しながら、能力や意識の向上を目的として、ジョブローテーションを掲げ実施した。しかし、一部の利用者のみで全体への拡がりは少なかった。次年度は、希望や適性を考慮しながら計画的に実行し、モニタリング、及び評価を通して確認した利用者一人ひとりの課題・目標、思いを受け止めよりよい支援を追及する。

【喫茶部門（Café 奏）】は、年4回の定期イベントの開催、“東三河モーニング街道”への参加、年間を通して認知度の拡がりを感じ、定期の顧客も増えている。利用者も準備、片付け、接客等、各方面で力がついて活躍しているが、オペレーションなど、利用者がわかりやすい設定をし、より活躍できる環境を整える必要がある。また、季節限定の新メニュー（マシュマロミルク、ミニスイーツ等）を開発し、耳つぼマッサージ、リンパマッサージ教室、パステル画教室を定期開催、グーグルマップ屋内版を設定するなど、新たな顧客の開拓を行っている。

【焼き菓子部門（OYATU 工房という）】は、店舗営業時間内は喫茶部門と一体的に運営され、日替わりパン、ピザパン等を提供している季節に合わせたオリジナルギフト商品（子供の日、敬老の日等）も企画している。また、こだわりの店舗とコラボして、健康志向の商品づくりを行った。販路の開拓、新商品（フォンダンショコラ、レモンケーキ、五平餅等）の開発を積極的におこないコアな顧客の獲得に一躍買っている。商品数も充実し、地域の店舗、コンビニ等でも販売展開をしている。購入しやすい価格設定もあり個人での大量注文も多く認知も拡がっている。バザーなど外部での販売についても可能な限り利用者も参加し充実感を得ることが出来た。利用者も、クッキーやパンづくり、パッケージング、オープンの使用等幅広く関わっている。

【軽作業部門（楽²）】では中期的な工賃アップを目指し今まで行っていた委託作業（ゴム）を終了した。代替えとして、今後の農作物の販路の繋がりを考えパクチーの選別の委託作業を導入した。しかし、ゴム作業に比べ難易度が高いため作業設定に苦労している。農作業では、自然栽培を軸とした組立てを行い、全国的な組織自然栽培パーティに参加し、事業の拡大を行っている。ブルーベリーは、主に生や喫茶でのスムージーでの提供、落花生は、炒って小袋に詰め、サツマイモは、干し芋にして販売するなど、6次化産業に向けての土台造りを行うことが出来た。その他、季節に合わせて野菜等を栽培し、店舗での提供と共に店頭販売もしている。

年度初めに、月額5,000円（一律支給：日給250円）からスタートした工賃は、

年度途中より月額7,000円(一律支給:日給350円)に上乘せすることができた。次年度は、工賃の維持は勿論のこと、更なるアップも視野に入れていきたい。生産活動とのバランスをとりながら、日中活動としてクラブ活動(カラオケ、書道、音楽、リズム体操、太鼓、茶道、ダンス、さをり)を設定し、多様な活動の中から選択できるようにした。次年度は、種目を増やし、さらなる選択の機会を設けたい。

次年度の重点課題として、事業運営の強化、利用者サービスの拡充、人材育成、を掲げ、利用者、職員、家族等、関係者も含めて、笑顔あふれる職場づくりすすめ、選ばれる事業を目指していく。

《重点課題に対する取り組み》

1. 事業運営の強化

安定した事業運営のための基盤づくりと強化に努めた。毎日の連絡反省会(朝夕)、や、班会議、職員会議、支援会議での事業運営における情報、そして意識の共有化、欠席者には文章やメールで報告するスタイルも定着してきた。

職員一人ひとりの積極性、主体性が発揮されつつあるが、時に、コミュニケーション不足による行き違い等も見られたため、より綿密な関りが必要と思われる。年度末に新規利用者が1名増員し、契約者数が23人となった。年度末で退職予定の職員がいたなど、職員体制が不安定なこともあり新規利用者の確保は慎重に行った。次年度、まずは新規職員の募集・採用をし、必要な人材確保に努める。並行して新規利用者(卒業予定者)獲得のため学校訪問や、随時の見学、日中一時、体験利用などを通してマッチングを計り不安材料を減らしながら定員充足に向けた措置を計る。個別支援計画、モニタリング、評価に対して全ての職員が関わることで情報共有、意識の統一化、支援力の向上を図ることができた。引き続き、新規利用者獲得のための働き掛けを行い、障害福祉サービス事業収入を増やす努力、工夫を継続し、安定した事業運営ができるようにする。

2. 利用者サービスの拡充

年間開所日(253日)に加え、活動日(9日:一人につき年2日)を設定し、生産活動以外のニーズにも応える努力をした。活動日については、昨年度は希望者が殺到し要望に添えないこともあったため一人につき年に2日は必ず参加できるように変更した。グループであらかじめ行きたい場所を考えるなど、プロセスも大切にした。送迎については、昨年度から希望するすべての利用者への対応を行っている。今後の利用者の増加や、希望などを考慮しながら、より利用しやすい環境を整えていく。生産活動については、一部の委託作業を終了するなど、マッチングに配慮しながら、工賃の増額についての取組みを行い年度途中から、日給250円より350円に増額することが出来た。市内の福祉事業所が飽和状態にある中、やりがい、サービスの質、工賃の向上につとめ、利用者には選ばれる事業所となるように努力、工夫を継続する。

3. 人材育成／支援力の向上

事業所全体の支援力の向上を図るため、年間を通して、外部研修に全ての職員が参加する機会を設定した。復命書、職員会議内での研修発表を通して知識、技術等の共有化を継続している。また、職員に対して年2回の個人面談を行い目指すべき方向性、あるべき姿、役割、個々のニーズを確認することが出来た。法人全体としての防災委員会、権利擁護委員会などの委員会活動を通して、事業所内外の情報共有を行うことが出来た。今日の福祉業界において事業の組み立て、運営を考える中、人材育成を最重要課と位置付け、次年度に向け継続課題として注力する。

《 地域活動：事業所の社会化 》

福祉体験学習・ボランティア体験学習・職場体験学習等 受入日／人数					
受入日	学校名	人数	受入日	学校名	人数
8/9	南陵中学校	2	11/16	東陽中学校	2
8/17	青陵中学校	2	12/7	東部中学校	2
8/22	豊橋商業高校	2			

《 事業所外生活支援：自立（律）生活訓練（宿泊体験）の連絡・調整 》

自立（律）生活訓練（宿泊体験） 人数												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年間延べ人数：0人												

《 防災計画・安全管理：防災訓練、防災委員会活動 》

防災訓練・学習 実施日			
4/21	防災学習（避難について）	8/5	防災訓練（地震想定）
5/26	防災訓練（火災想定）	11/24	防災訓練（地震想定）
6/29	防災訓練（火災想定）	3/17	引き取り訓練（地震想定）

防災委員会活動	
4/20	今年度年間計画について
6/15	避難所運営ゲームHUGを用いて災害想定訓練
8/31	法人全体防災訓練のバージョンアップについて・個人用備蓄品の確認
10/19	B C Pマニュアルの更新について（内容、住所録など）・法人防災訓練の内容についてたたき台作成
12/21	被災時、利用者と家族が避難してくることを想定したマニュアル作り 車を置いて逃げる場合のマニュアル作りについて
2/15	災害時の事業所別フローチャートについて 災害時のトイレについて・法人全体防災訓練の確認
3/17	AM 法人全体防災訓練実施・法人全体研修内で防災 （パッククッキング、タイムライン作成等）についての学習
3/22	個人備蓄品の更新、新規者の確認 今年度の反省と次年度のについて

《 職員研修 》

月	内容	対象者
4月	食品衛生講習会 フレッシュマンスキルアップ研修	生活支援員 新規採用職員
5月	社会福祉士実習指導者講習 障害福祉職員初級研修 自然栽培勉強会	生活支援員
6月	「事業運営について」 決算書講座 新規採用者研修	法人全体研修 管理者 新規採用職員
7月	全国施設長会議 東三セルフ事務員研修 さをり織り指導者養成講座 お客様が買いたくなる売り場作りセミナー 強度行動障害支援者研修（基礎）	管理者 事務員 生活支援員 生活支援員 生活支援員
8月	職場環境改善研修 雇用管理セミナー 強度行動障害支援者研修（実践）	管理者 管理者 生活支援員
9月	福祉協会全国大会 BCPセミナー 東三セルフ療育研修（インシデントプロセス法） 若手社員研修会 リスクマネジメント研修	管理者 管理者 生活支援員 生活支援員 新規採用職員 法人全体研修
10月	サービス管理者研修 権利擁護研修 食品関係従業員研修 食品衛生講習会	管理者 生活支援員 生活支援員 管理者
11月	東三セルフ事務員研修 困難事例対応研修 基礎研修	事務員 生活支援員 生活支援員
12月	セルフサービス管理研修 接遇研修 虐待防止研修 防災フェア研修 権利擁護研修	管理者 生活支援員 管理者 管理者 法人全体研修
1月	福祉協会管理者セミナー コーチング基礎研修 スキルアップ研修	管理者 生活支援員 生活支援員
2月	東三セルフ合同研修会 愛知県職員研究大会 アメニティーフォーラム 自然栽培研修 メンタルヘルス研修	事業所全職員 生活支援員 生活支援員 生活支援員 管理者
3月	防災研修	法人全体研修

《 生産活動 売上金額 》

月	奏+といろ 売上金額 (円)	楽2 売上金額 (円)	計 (円)
4	292,310	93,707	386,017
5	295,230	113,894	409,124
6	332,110	73,508	405,618
7	323,081	200,627	523,708
8	296,153	282,922	579,075
9	240,480	139,488	379,968
10	324,874	174,740	499,614
11	512,665	162,632	675,297
12	330,237	161,167	491,404
1	255,650	81,797	337,447
2	360,719	138,415	499,134
3	368,135	101,232	469,367
計	3,931,644	1,724,129	5,655,773

《原材料費率=原材料費／売上金額》

計	980,104	170,216	1,150,320
比率	24.9%	9.9%	20.3%

【障害支援区分別人数】

生活介護

性別	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	非該当	合計
男性	3	2	6	3	—	—	—	14
女性	3	4	2	1	—	—	—	10
合計	6	6	8	4	0	0	0	24

※平均障害支援区分：4.35

【年齢別人数】

生活介護

性別	20歳未満	20-25	26-29	30-39	40-49	50-59	合計
男性	2	3	3	1	4	1	14
女性	0	2	1	1	5	1	10
合計	2	5	4	2	9	2	24

性別	平均年齢	最低年齢	最高年齢
男性	31.9	18	53
女性	37.4	20	51